

## 横地分類(改訂大島分類)

「移動機能」、「知能」、「特記事項」の3項目で分類し、以下のように表記する。

例：A1-C, B2, D2-U, B5-B, C4-D

<知能レベル>						
E6	E5	E4	E3	E2	E1	簡単な計算可
D6	D5	D4	D3	D2	D1	簡単な文字・数字の理解可
C6	C5	C4	C3	C2	C1	簡単な色・数の理解可
B6	B5	B4	B3	B2	B1	簡単な言語理解可
A6	A5	A4	A3	A2	A1	言語理解不可
<特記事項>						
C:有意な眼瞼運動なし						
B:盲						
D:難聴						
U:両上肢機能全廃						
<移動機能レベル>						
戸外歩行可	室内歩行可	室内移動可	座位保持可	寝返り可	寝返り不可	

当たるでしょう。それでは、入所者はどこに通つたらこれに当たると言えるでしょうか。私たちの施設では、ゾーンというユニットで生活しています。ここでは、似たような障害像の人が生活をしています。これを施設入所者の社会とみなしていいと思います。そして、ゾーンでは個の生活と集団生活をバランスよく組み合わせていこうと考えています。そうすれば、施設入所者の社会参加にはなるのではないのでしょうか。ICFの「参加」も重症心身障害にはなじみにくい言葉なので使いま



せんが、その精神はこんなふう  
に考えています。

## ひかりの子の 日常生活紹介

幸田 沙織

児童発達支援センターひかりの子は、就学前の幼児を対象とし、主に遊び(保育)を提供している通園部門です。現在は最年少1歳9ヶ月から最年長5歳9ヶ月までの29名(横地分類A1が16名、A2が6名、A4が4名、C4が2名、D4が1名)の児童が利用されています。

昨年4月より発達に合わせた2つのクラスに分かれて、日中活動時間を過ごしています。



1つのクラスでは、「紙遊び」「ボール遊び」「音遊び」「絵本遊び」の4つの遊びを行っています。同じ遊びを繰り返し続けていくことで、子ども達は遊び方を覚え、そこから

何かを感じようと自発的な動きが現れるようになっていくと考えています。私たち職員は子ども達の表情や体の動きを見ながら個別にじっくりと関わっています。6月は紙遊びをしました。

Aちゃん(A4)は、職員と向かい合って、紙遊びを楽しみます。職員が新聞紙の端を握り、Aちゃんに「さあ、遊ぼうか」と声をかけると、Aちゃんは顔を職員に向けて、真剣な表情をしています。そして、Aちゃんは左手を伸ばし、勢いよく新聞紙をビリッと破ります。「破り切る」ことを達成し、職員が「Aちゃん、破れたね。すごいねえ。」と声をかけると、この時初めて満面の笑みで職員を見ます。また、紙の大きさや種類を変えると、一度に破り切れないこともあります。その時は、左腕をグイグイグイッと動かし、破り切るまで集中しています。「できたあ」と職員がまた声をかけると、集中していた時の表情とは一変し、ふわあーと表情が緩みます。紙の種類を変えることで、破り切ることの難しさは増した分、すぐに破れてしまう時よりも、大きな満足感を感じているようです。職員がそのことを共

感すること、Aちゃんの楽しさがより増しているように感じました。

もう1つのクラスでは、保育内容が毎日変わります。

「音」「感触」「製作」「模倣」「見立て」「マッチング」「ルールの理解」「発想表現」という保育の階層を元に、子ども達自身が遊びを楽しみ、そこから発達していくことを目的に行っています。その子がどの階層にあるのかを踏まえて、同じ保育内容でも個々に合わせた遊びを行っています。

Tシャツ型に切り取った紙に絵の具で筆や指を使って、子どもが自由に模様を作るという遊びをしました。子どもたち個々でいろいろな模様のTシャツができました。

